

森林生態系の管理目標に関する現状把握・ 評価について

目次

1. 令和7年度の実施内容.....	2
①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復	3
②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復.....	6
③ヤクシカの嗜好性植物種の更新	10
④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全	11
2. 今後の取組予定	11

林野庁 九州森林管理局

1. 令和7年度の実施内容

本年度は、表1の森林生態系の管理目標のうち、①の目標については植生保護柵6箇所にて現地調査を実施し、現状把握及び評価を行った。②～④の目標については「屋久島世界遺産地域モニタリング計画」等により関係機関が実施した各種調査結果等をベースに現状把握及び評価を行った。

表 1 森林生態系の管理目標と令和6年度の現状評価の実施地域

森林生態系の管理目標	現状把握・評価予定地域
①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復	植生保護柵 6 箇所(図 1) (カンカケ 200m、400m、700m、ヒズクシ、中間前岳下、中間 4)
②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復	モニタリング計画による東部地域の植生垂直分布調査実施箇所(図 2) (200～1200m の各調査プロット)
③ヤクシカの嗜好性植物種の更新	
④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全	モニタリング計画による本年度の絶滅のおそれのある固有植物種等の調査地域(モニタリングサイト)

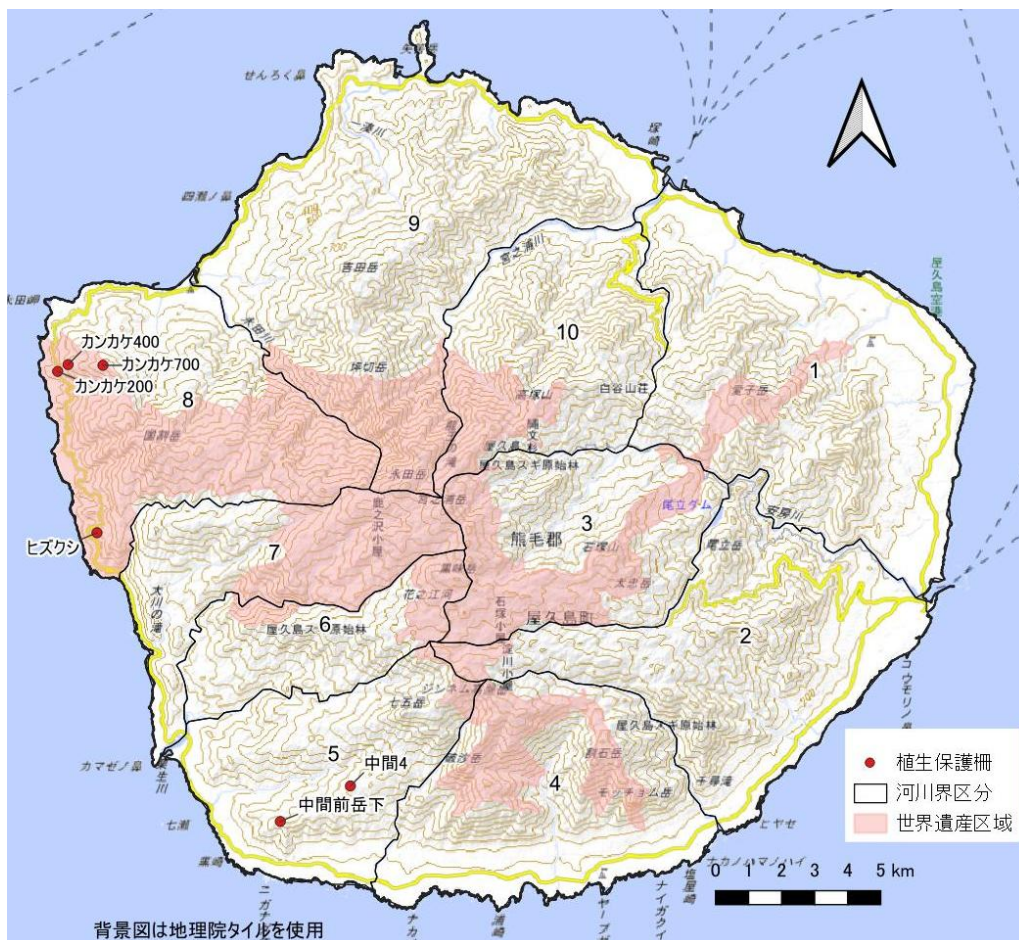


図 1 植生保護柵調査予定箇所（赤色プロット部分）

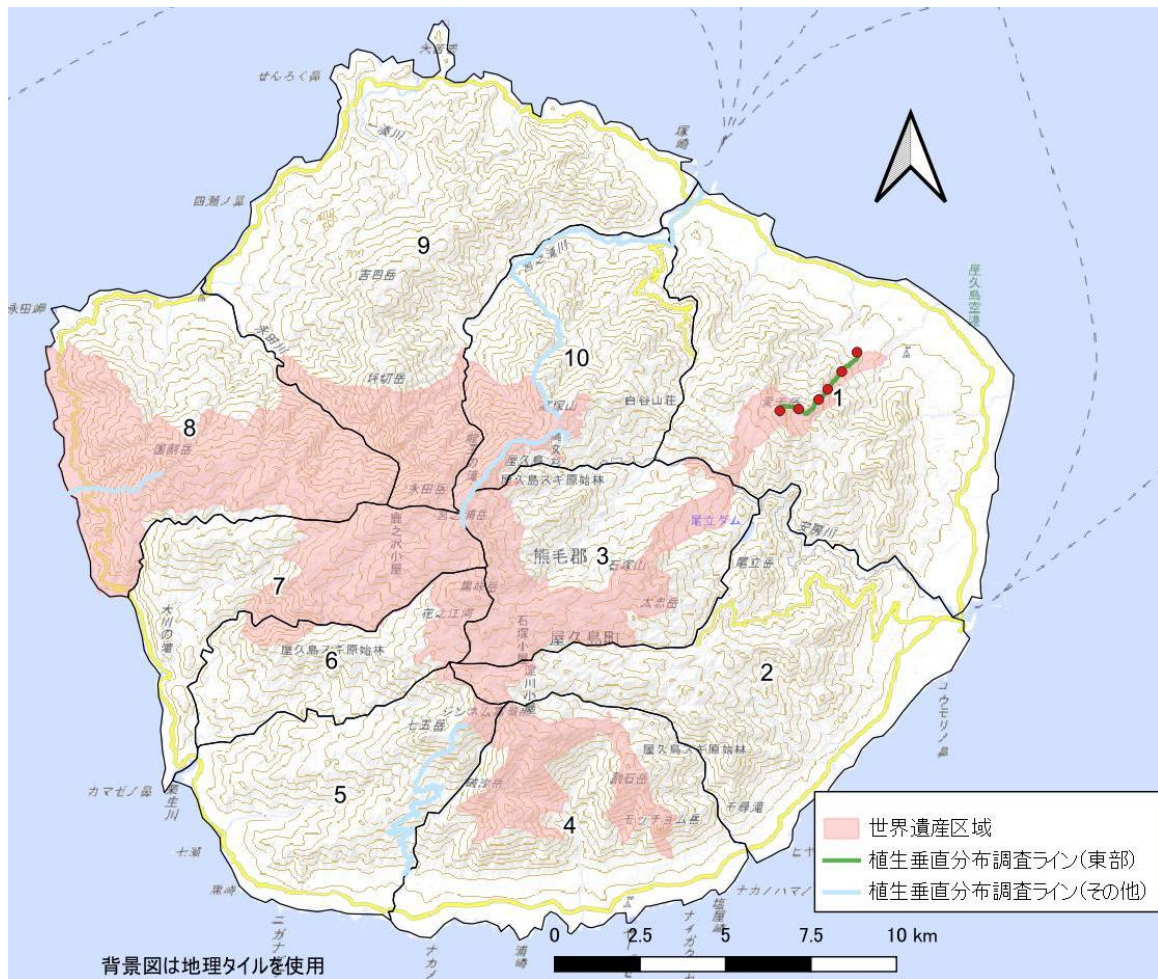


図 2 現状評価を実施する屋久島東部地域の植生垂直分布調査実施箇所（赤色プロット部分）

①屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復

評価指標:シダ植物の林床被度

評価基準:植生保護柵外のシダ植物の被度を柵内の 50%を目安として回復させる。

把握方法:植生保護柵内外の植生調査においてシダ植物の被度を百分率(%)で記録し、柵内外の違いを定量的に比較する。

本年度は、図1の植生保護柵 6 箇所で現地調査を実施し、草本層において確認された各シダ植物種の柵内外の被度の違いを比較して現状把握及び現状評価を行った。

柵内と柵外にはそれぞれ複数の調査プロットを設けて調査しているため、同じ種が柵内または柵外の複数プロットで確認された場合、最大被度を用いて比較した。

また、2018 年度以前の調査結果についてはブラウン・ブランケの被度区分で記録されているため、便宜的に各区分の最大値をとり、被度 5→100%、被度 4→75%、被度 3→50%、被度 2→25%、被度 1→10%、被度+→1%と換算した。

保護柵設置箇所別の調査結果は次のとおりである。

【中間前岳下】

中間前岳下の植生保護柵は河川界区分 5 に位置し、標高約 510m に 1 箇所設置されている(2010 年設置)。本年度はその植生保護柵において調査を実施した。

中間前岳下では、柵内で 10 種、柵外で 14 種のシダ植物が確認された(表 2)。

柵内では前回確認できなかったオニクラマゴケが再確認されたが、前回記録のあるエダウチホングウシダとミゾシダの 2 種を確認することができなかった。

柵外ではヒカゲアマクサシダとホソバコケシノブが新規に確認されたが、前回記録のあるヒメハシゴシダ、ミゾシダ、ユノミネシダの 3 種を確認することができなかった。

また、タカサゴシダとホコザキベニシダの柵外における被度は依然として低いままであった。この 2 種に加え、継続して柵内でしか確認されていたヨゴレイタチシダの計 3 種が目標となる回復に至っていない状況であった。

表 2 中間前岳下における柵内外の草本層とシダ植物の被度

種名	調査年度							
	2011		2012		2020		2025	
	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外
草本層全体	50%	10%	65%	10%	65%	8%	70%	8%
ウラジロ						1%		1%
エダウチホングウシダ					1%		消失	
オニクラマゴケ	1%	1%	1%	1%		1%	1%	1%
カツモウイノデ	1%	1%	1%	10%	1%	5%	1%	5%
コバノイシカグマ						1%		1%
コバノカナワラビ	25%	25%	10%	25%	5%	5%	10%	5%
タカサゴキノオ	25%	10%	25%	10%	20%	1%	10%	1%
トウゴクシダ						1%		1%
ヒカゲアマクサシダ								1%
ヒメハシゴシダ						1%		消失
ヘラシダ	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
ホコザキベニシダ	10%	1%	10%	10%	20%	1%	10%	1%
ホソバカナワラビ	25%	10%	10%	10%	15%	10%	3%	10%
ホソバコケシノブ								1%
マメヅタ	1%		10%	1%	1%	1%	1%	1%
ミゾシダ					1%	1%	消失	消失
ミヤマノコギリシダ	10%	25%	10%	25%	15%	25%	10%	8%
ユノミネシダ						1%		消失
ヨゴレイタチシダ	1%		10%		8%		15%	
確認種数	10	8	10	9	11	15	10	14
目標未達種数	5		3		4		3	

【中間 4】

中間の植生保護柵は河川界区分 5 に位置し、標高約 750m 地点に近接して 7 箇所設置されている(2010 年設置)。本年度はそのうちの中間 4 の植生保護柵において調査を実施した。

中間 4 では柵内で種、柵外で種のシダ植物が確認された(表 3)。

柵内ではコハシゴシダとヒツバが新規に確認されたほか、前回確認できなかったオニクラマゴケが再確認された。一方、前回は確認されていたカタヒバ、コバノカナワラビ、トウゴクシダの 3 種が消失した。

柵外では新規確認種はなく、前回記録のあるシシランとナガバノイタチシダの 2 種を確認することができ

なかった。

オオキジノオ、オニクラマゴケ、コハシゴシダ、ツルホラゴケ、ナガバノイタチシダ、ヌリトラノオ、ハイホラゴケ、ヒトツバ、ホコザキベニシダ、マメヅタ、ヤクカナワラビの計 11 種が目標となる回復に至っていない状況であった。

表 3 中間 4 における柵内外の草本層とシダ植物の被度

種名	調査年度							
	2011		2012		2018		2025	
	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外
草本層全体	75%	50%	80%	50%	70%	60%	85%	90%
イワヤナギシダ	1%		消失					
オオキジノオ	10%		10%		10%		5%	
オニクラマゴケ	1%		1%				1%	
カタヒバ			1%		1%		消失	
カツモウイノデ	50%	10%	50%	10%	50%	25%	20%	20%
コウヤコケシノブ					1%			
コハシゴシダ							1%	
コバノイシカグマ	1%		消失					
コバノカナワラビ					1%		消失	
シシラン			1%			1%		消失
タカサゴキジノオ	10%	10%	10%	10%	10%	1%	3%	3%
タカサゴシダ	1%	10%	10%	10%	1%	消失	3%	
ツルホラゴケ	1%	25%	1%	25%	1%	1%	3%	1%
トウゴクシダ	1%		10%		10%		消失	
ナガバノイタチシダ	1%		1%		消失	1%	3%	消失
ヌリトラノオ	1%		1%		1%		1%	
ハイホラゴケ		1%	1%	10%	1%	消失	1%	
ハシゴシダ	1%		1%		消失			
ヒトツバ							1%	
ホコザキベニシダ	1%	1%	1%	1%	1%	消失	1%	
ホソバカナワラビ	25%	10%	25%	10%	25%	25%	15%	10%
ホソバコケシノブ	1%		消失					
マメヅタ			1%		1%		1%	
ミヤマノコギリシダ	50%	25%	50%	50%	50%	50%	15%	25%
ヤクカナワラビ	1%	1%	10%	1%	10%	消失	8%	
種数計	17	9	18	9	16	7	16	5
目標未達種数	11		11		9		11	

その他の地域での調査結果は、令和 8 年度第 1 回ヤクシカ WG での報告を予定する。

②屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復

評価指標:植物種数

評価基準:各標高帯において 2000 年代の確認植物種数に回復させる。

把握方法:植生垂直分布調査結果から各標高帯の草本層の植物種名・種数を抽出して 2000 年代の状況と比較する。また、種数だけでなく 2000 年代の調査以降に消失した種の回復(再出現)状況も確認する。

本年度は、九州森林管理局計画課の事業において屋久島東部地域で植生垂直分布調査を実施したため(図 2)、その詳細調査プロットでの結果を抽出し、屋久島西部地域の植物種数の変化傾向の把握と本目標の現状評価を行った。

【東部地域の現状評価】

東部地域については、2021 年調査時点において、標高 600m 以上の4標高帯において 2001 年の確認種数を超え、目標を達成している状況であった。

今回の 2025 年調査においても、標高 600m 以上では目標を達成しており、標高 200m、400m 地点においても、2001 年の種数には及ばなかったが、種数が増加傾向にあることが確認できた(図3)。

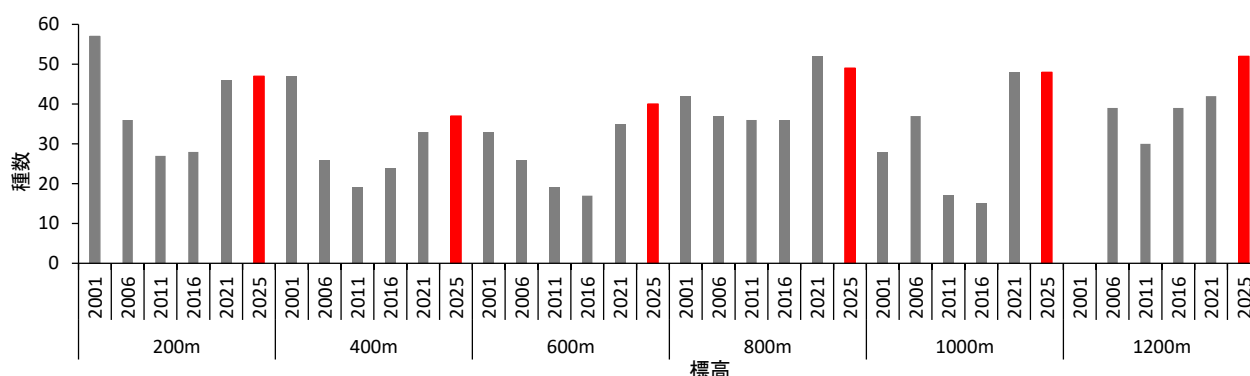


図 3 東部地域における標高別の植物種数の変化
(2001 年の 1200m 地点は植生調査未実施)

【東部地域における消失/回復種と新規確認種】

東部地域については種数が増加傾向にあり、多くの標高帯で目標を達成しているが、種数の増加は消失種の回復だけでなく、攪乱等による新規出現種の増加によるものもある。このため、東部地域での消失種、回復種、新規確認種を標高帯別に整理した。

<標高 200m>

標高 200m 地点では、2001 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 28 種あった。消失種のうちヤクシカの高嗜好性種は 5 種あった。一方、2025 年までの回復種は 15 種であった(表 4)。

また、2025 年の新規確認種は 10 種あった。なお、2021 年には 6 種が新規確認されたが、うち 2 種が 2025 年には消失した(表 4)。

表 4 標高 200m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:28 種 (2001 年確認後 2025 年 までに消失)	回復種:15 種 (2001 年確認後消失 し 2025 年までに再確 認)	2025 年 新規確認種:10 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:6 種 (2021 年に初確認) (青字は 2025 年に消失)
目標③の 嗜好種	イヌビワ	ホソバタブ		
★★★ (特に好む)	ウラジロガシ、ネズミモチ	ボチョウジ、	アオノクマタケラン、コバン モチ	フカノキ
★★(好む)	サカキ、シマイズセンリョウ	モクタチバナ	ヒツバ	
★(食べる)	ウラジロ、コシダ、ヒサカキ、 ミズバイ	タイミンタチバナ、ホウロ クイチゴ、ヤブツバキ	クロバイ	
不嗜好	ハイノキ、モッコク	センリョウ、マンリョウ		
未評価	ササクサ、シキミ、シマヤワ ラシダ、タイワンアキグミ、ツ ルコウジ、テイカカズラ、トキ ワカモメツル、トクサラン、 ハナミョウガ、ヒカゲアマク サシダ、ヒメアリドオシ、ヒメ シャラ、ヒメハシゴシダ、ヒロ ハノミズバイ、フユイチゴ、 ベニシダ、ヤマモガシ	エダウチホングウシダ、 コバノカナワラビ、サカ キカズラ、サクラツツジ、 シロダモ、タカサゴキジ ノオ、ミヤマノコギリシダ	シャシヤンボ、ハリガネワ ラビ、ヒロハミヤマノコギリ シダ、ヘクソカズラ、ホコ ザキベニシダ、ホソバオオ カグマ	サンカクヅル、チジミザサ、ハ ゼノキ、ハナガサノキ、ヤマヒ ハツ

<標高 400m>

標高 400m 地点では、2004 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 24 種あった。消失種のうちヤクシカの高嗜好性種は 4 種あった。一方、2025 年までの回復種は 11 種であった(表 5)。

また、2025 年の新規確認種は 4 種あった。なお、2021 年には 7 種が新規確認されたが、うち 2 種が 2025 年には消失した(表 5)。

表 5 標高 400m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:24 種 (2001 年確認後 2025 年 までに消失)	回復種:11 種 (2001 年確認後消失 し 2025 年までに再確 認)	2025 年 新規確認種:4 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:7 種 (2021 年に初確認) (青字は 2025 年に消失)
目標③の 嗜好種	ホソバタブ、マテバシイ		ヤクシマオナガカエデ	アカガシ
★★★ (特に好む)	スダジイ		タブノキ	フカノキ
★★(好む)	サカキ	バリバリノキ		
★(食べる)	クロバイ、ホウロクイチゴ、ミ ミズバイ、ヤマビワ	アリドオシ、ヒサカキ		ウラジロ
不嗜好	サザンカ、センリョウ、トキワ ガキ	シラタマカズラ		ヤマモモ
未評価	オオサンショウソウ、カゴノ キ、キジノオシダ、キッコウ ハグマ、サカキカズラ、シキ ミ、テイカカズラ、トクサラ シ、ハナミョウガ、ヒメイタ ビ、ヒロハノミズバイ、ヘラ シダ、ヤクカナワラビ	イズセンリョウ、エダウチ ホングウシダ、オニクラ マゴケ、カクレミノ、タカ サゴキジノオ、マメツタ、 ミヤマノコギリシダ	タシロルリミノキ、ツゲモチ	アオモジ、エゴノキ、コバンモ チ

<標高 600m>

標高 600m 地点では、2001 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 10 種あった。消失種のうち

ヤクシカの高嗜好性種は 2 種あった。一方、2025 年までの回復種は 13 種であった(表 6)。

また、2025 年の新規確認種は 6 種あった。なお、2021 年にも 6 種が新規確認され、2025 年も全て継続確認されている(表 6)。

表 6 標高 600m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:10 種 (2001 年確認後 2025 年 までに消失)	回復種:13 種 (2001 年確認後消失し 2025 年までに再確認)	2025 年 新規確認種:6 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:6 種 (2021 年に初確認)
目標③の 嗜好種	アカガシ	マテバシイ、ヤブニッケイ		ヤクシマオナガカエデ
★★★ (特に好む)	タブノキ	ウラジロガシ、スダジイ		
★★(好む)		サカキ、バリバリノキ		スギ
★(食べる)	アリドオン、クロバイ	ミズノバイ		
不嗜好	サザンカ	センリョウ、マンリョウ、モツ コク		
未評価	クロキ、シロダモ、ヒイラギ、 ベニシダ、ホコザキベニシ ダ	アデク、タカサゴキジノオ、 モチノキ	アオモジ、シシラン、ツ ゲモチ、ヒメツルアリド シ、モクレイシ	エゴノキ、エダウチホングウシ ダ、キジノオシダ、コバノイシ カグマ

<標高 800m>

標高 800m 地点では、2001 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 13 種あった。消失種のうちヤクシカの高嗜好性種は 5 種あった。一方、2025 年までの回復種は 16 種であった(表 7)。

また、2025 年の新規確認種 2 種あった。なお、2021 年には 10 種が新規確認されたが、うち 5 種が 2025 年には消失した(表 7)。

表 7 標高 800m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:13 種 (2001 年確認後 2025 年までに消失)	回復種:16 種 (2001 年確認後消失し 2025 年までに再確認)	2025 年 新規確認種:2 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:10 種 (2021 年に初確認) (青字は 2025 年に消失)
目標③の 嗜好種	サツマイナモリ	サンショウソウ		
★★★ (特に好む)	ウラジロガシ、タブノキ、 ヤマグルマ	サカキ		
★★(好む)	アマクサギ			
★(食べる)	アリドオン、ハウロクイチ ゴ	イスノキ、イヌガシ、クロバ イ、タイミンタチバナ、ヤ ブツバキ		
不嗜好		センリョウ、ユズリハ		
未評価	アツイタ、イシカグマ、コ ガクウツギ、ヒメヒサカ キ、ベニシダ、マルバフ ユイチゴ	イタビカズラ、イワヤナギ シダ、シキミ、ノキシノブ、 ヒメシヤラ、マメツタ、ミヤ マノコギリシダ	ミゾシダ、ミヤマノキシ ノブ	イヌタマシダ、エダウチホングウシ ダ、オオキジノオ、コショウノキ、コス ギイタチシダ、サンカクヅル、タイワ ンハリガネワラビ、トウゴクシダ、ハナ ガサノキ、ムラサキベニシダ

<標高 1000m>

標高 1000m 地点では、2001 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 7 種あった。一方、2025 年までの回復種は 12 種であった(表 8)。

また、2025 年の新規確認種は 4 種あった。なお、2021 年には 23 種が新規確認されたが、うち 8 種が 2025 年には消失した(表 8)。

表 8 標高 1000m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:7 種 (2001 年確認後 2025 年までに消失)	回復種:12 種 (2001 年確認後消失し 2025 年までに再確認)	2025 年 新規確認種:4 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:23 種 (2021 年に初確認)
目標③の 嗜好種		ヤブニッケイ	ホソバタブ	
★★★ (特に好む)		ヤクシマアジサイ	ヤマグルマ	
★★(好む)				ツガ、バリバリノキ
★(食べる)	アリドオシ、クロバイ、ホ ウロクイチゴ	ヒサカキ、ヤブツバキ		タイミンタチバナ
不嗜好		マンリョウ、ユズリハ	マムシグサ	
未評価	イシカグマ、ノキシノブ、 ヒメヒサカキ、ベニシダ	コガクウツギ、コバノイシカ グマ、サンショウソウ、タカ サゴキジノオ、ヒメシヤラ、ミ ヤマノコギリシダ	タカサゴシダとの雑種	イワガラミ、オオキジノオ、カラタ チバナ、キジノオシダ、コスギイ チシダ、シシガシラ、シロダモ、ス ズコウジュ、タイワンハリガネワラ ビ、チャボシライトソウ、ツクシイヌ ツゲ、トウゴクシダ、ヒメノキシ ノブ、ホソバトウゲシバ、ミヤマノ キシノブ、ムラサキベニシダ、モク レイシ、ヤクシマアカシュスラン、 ヤクシマミヤマスマミレ、ヤマハンシ ョウヅル

<標高 1200m>

標高 1200m 地点では、2006 年に確認され、2025 年までに消失した植物種は 12 種あった。消失種のうちヤクシカの高嗜好性種は 1 種あった。一方、2025 年までの回復種は 12 種であった(表 9)。

また、2025 年の新規確認種は 9 種あった。なお、2021 年には 8 種が新規確認されたが、うち 2 種が 2025 年には消失した(表 9)。

表 9 標高 1200m 地点詳細調査プロットでの消失種・回復種・新規確認種

ヤクシカ 嗜好性	消失種:12 種 (2006 年確認後 2025 年までに消失)	回復種:12 種 (2006 年確認後消失し 2025 年までに再確認)	2025 年 新規確認種:9 種 (2025 年に初確認)	2021 年 新規確認種:8 種 (2021 年に初確認) (青字は 2025 年に消失)
目標③の 嗜好種		ヤブニッケイ		
★★★ (特に好む)		ウラジログラン	ナナカマド、リョウブ	
★★(好む)	ツガ			
★(食べる)	コシダ、タイミンタチバナ	ヒサカキ		
不嗜好			センリョウ	
未評価	キジノオシダ、スゲ、ソヨ ゴ、ツクシウスノキ、ヒノ キ、ヒメヒサカキ、マルバ ヤマシグレ、ヤクシマカラ マツ、ヤクシマコオトギリ	アリノトウグサ、キッコウハグ マ、コガクウツギ、シシガシ ラ、ヒイラギ、ヒカゲツツジ、ミ ヤマシキミ、ヤクシマチャボ ゼキショウ、ヤクシマミヤマ ミレ	アオスゲ、イッスンキン カ、センブリ、ツクシヨ ウジョウバカマ、フモトス ミレ、ホコザキベニシダ	キジノオシダ、ケイビラン、シ マサクラガンビ、トウゴクシダ、 ハゼノキ、ホソバコケシノブ、 ヤクシマスマスキ、ヤクシマツル リンドウ

③ヤクシカの嗜好性植物種の更新

評価指標:嗜好性植物種の種数、被度

評価基準:ヤクシカの嗜好性植物種の確認種数、被度を過年度から回復または維持増加させる。

把握方法:嗜好性植物種について生育の更新状況を把握しやすい草本層の出現状況及び被度の経年的な変化を確認する。

本年度は、目標②と同様、九州森林管理局計画課の事業において実施した屋久島東部地域(図 2)の植生垂直分布調査結果から、過年度に選定した嗜好性植物種の抽出・整理を行った。

また、2018 年度以前のブラウン・ブランケの被度区分による調査結果については、目標①と同様、被度 5→100%、被度 4→75%、被度 3→50%、被度 2→25%、被度 1→10%、被度+→1%と換算した。

過年度調査と比較すると、標高 200m ではイヌビワが 2001 年以来、確認されていない状況であった。標高 400m では、アカガシの被度が増加したほか、ヤクシマオナガカエデが新規確認されたが、ホソバタブが確認されなくなった。標高 600m では、ヤクシマオナガカエデの被度が増加したが、アカガシとホソバタブが確認されなくなった。標高 800m でヤブニッケイの約 20 年ぶりの確認により確認種数の増加が見られ、サンショウソウの被度も増加した。標高 1000m では確認種、被度ともにほとんど変化ない状況であった。標高 1200m でも確認種に変化はないが、アカガシとヒメカカラは 2006 年の被度には回復していなかった。

以上より、標高 800m と 1000m については、確認種と被度の点から目標を達成している状況であった。一方、その他の標高帯については、消失したままの種や被度が回復しない種が一部存在し、今後も注視していく必要がある。

表 10 東部地域における標高別の嗜好性植物種の被度 (%) の変化

種名	200m							400m						
	2001	2006	2011	2016	2021	2025	変化	2001	2006	2011	2016	2021	2025	変化
アカガシ												1%	3%	
イヌビワ	1%													
ホソバタブ	1%		1%		1%	1%		1%		1%		1%		
マテバシイ	1%	1%	1%	1%	1%	1%		1%	10%	1%				
ヤクシマオナガカエデ													1%	
ヤブニッケイ	10%	10%	1%	1%	10%	8%		1%	10%	1%	1%	1%	1%	
確認種数	4	2	3	2	3	3		3	2	3	1	3	3	
種名	600m							800m						
	2001	2006	2011	2016	2021	2025	変化	2001	2006	2011	2016	2021	2025	変化
アカガシ	1%	10%	1%		1%						1%	1%	1%	
サツマイナモリ								1%						
サンショウソウ								1%	1%		1%	1%	3%	
ホソバタブ			1%		0.5%			1%	10%	1%	1%	1%	1%	
マテバシイ	1%	10%	1%			1%								
ヤクシマオナガカエデ					1%	3%								
ヤブニッケイ	1%	25%		1%	1%	1%			1%				1%	
確認種数	3	3	3	1	4	3		3	3	1	3	3	4	
種名	1000m							1200m						
	2001	2006	2011	2016	2021	2025	変化	なし	2006	2011	2016	2021	2025	変化
アカガシ		1%			1%	1%			25%	1%	1%	1%	1%	
サンショウソウ	1%	1%			1%	1%								
ヒメカカラ									10%	1%	1%	1%	1%	
ヤブニッケイ	1%	1%	1%		1%	1%			1%		1%	1%	1%	
確認種数	2	3	1	0	3	3			3	2	3	3	3	

④絶滅のおそれのある固有植物種等の保全

評価指標：希少種・固有植物種の生育確認箇所数・個体数

評価基準：既往調査地において絶滅のおそれのある固有植物種等の生育確認箇所数・生育個体数を過年度から維持増加させる。

把握方法：環境省事業で調査対象種として選定された絶滅のおそれのある固有植物種等 267 種のうち、既往調査で確認されている 91 種を指標種とし、当該事業の調査結果から指標種の確認地点数・確認個体数について経年的な変化を確認する。

本年度は、環境省事業において絶滅のおそれのある固有植物種等の調査がモニタリングサイト 107 地点のうち、10 地点でモニタリングが実施された。

今回、この 10 地点について、地生種と着生種に分け、過年度調査結果（2011-12 年、2016 年に実施）と比較した。調査地点や調査の詳細については環境省の報告資料参照（資料 3-3）。

【生育確認地点数】

生育確認地点数を見ると、地生種は 10 地点中 7 地点で確認し 2016 年以降消失した地点が 2 地点あった。各地点の種数を見ると、4 地点で増加傾向、5 地点で減少傾向（消失含む）が確認された。

着生種は 10 地点中 9 地点の確認で、地点数に変化はなかった。各地点の種数を見ると、5 地点で維持増加傾向、4 地点で減少傾向が確認された。

以上より、生育確認地点数については、地生種が消失したままの地点があり、目標となる維持増加には至っていない状況であった。また、着生種は地点数を維持していたものの、確認種数が減少傾向の地点も多く、今後の状況に注意する必要がある。

【生育個体数】

モニタリング地点別の生育個体数を見ると、地生種は 3 地点で維持増加傾向、6 地点で減少傾向（消失含む）が確認された。

着生種は、6 地点で維持増加傾向、3 地点で減少傾向が確認された。

以上より、生育個体数については、地生種、着生種ともに目標となる維持増加傾向の地点が確認されたものの、減少傾向が確認され目標に至らなかった地点もあった。

表 11 生育確認地点数の変化と各地点の種数・個体数の変化傾向

種別	確認地点数の変化	種数の変化傾向別地点数		個体数の変化傾向別地点数	
		維持増加傾向	減少傾向	維持増加傾向	減少傾向
地生種	9→7	4	5	3	6
着生種	9→9	5	4	6	3

2. 今後の取組予定

令和 8 年度以降も、モニタリングが実施された箇所において管理目標の達成状況の現状と評価を更新し、評価結果から注意すべき箇所を抽出する。